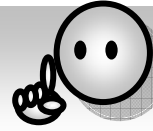


国語，算数・数学の学力を高めるための さまざまな取り組みを検討する



内容説明

「多様な学習者一人ひとりの学力を高めるために」という、大きなテーマを一度に解決するのは、大変困難なことです。みなさんが「自分ならこのようにする」という具体的な課題に取り組む時の参考にするために、チームでさまざまな学習指導方法を例に取り上げて、それぞれの長所と短所を整理してみましょう。

個別指導や個別学習教材

国語，算数・数学の基礎学力を育てるための指導法に、どのようなものがあるでしょうか。「個に応じた指導」、「きめ細かな指導」ということがしばしば主張されていますが、従来の市販教材や通信教育の教材でもこうした個別学習を可能にするよう配慮していますし、学習塾でも個別指導方式が急激に増えています。このように、「一人ひとりが学ぶ」ということを意識したものについて考えるために、次の課題にチームで取り組みましょう。

1. 次の方法についてチームで話し合い、長所と短所をあげなさい。

個別指導

個別学習用教材の共同開発と利用

市販の個別学習用教材の利用

ゲームやドリルソフトなどの自学用ソフトの利用

その他()

少人数授業，ティームティーチング，習熟度別指導

新学習指導要領に対応して2002年1月17日に文部科学省が出した「確かな学力の向上のための2002アピール『学びのすすめ』」では、「新しい学習指導要領のねらいとする児童生徒の確かな学力の向上」のために5つの方策を示しています。その中の1つである「きめ細かな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身に付ける」という方策については、「教科ごとの学習状況に応じて、少人数授業や習熟度別指導など個に応じた指導を大幅に取り入れる」という説明がされています。

2003年2月3日に文部科学省が発表した「公立小・中学校における教育課程の編成状況等の調査結果」によると、2002年5月に習熟の程度に応じた指導を行っている小学

校・中学校は6割を超えています。ただし、指導方法には3種類のタイプがあり、それぞれの内容は

類型 A: 例えば2学級を3つの学習集団に分けるなど学級の枠を超えて、習熟の程度に応じた学習集団を編成し、それぞれの学習集団を異なる教師が指導する場合。

類型 B: 1学級を2つ以上の習熟の程度に応じた学習集団に分け、それぞれの学習集団を異なる教師が指導する場合。

類型 C: その他(例として、1学級を単位とし、1人または複数の教師が、個人や学習集団によって、習熟の程度に応じて課題等を変えるなどの指導を行う場合など。)

と例示されており、小学校では類型Cのパターンでチームティーチングと絡めながら実施することが多く、中学校では類型Bのパターンで少人数授業の形で実施することが多いとされています。類型Cの()内の具体例の一つとして個別指導や個別教材の開発が考えられますが、これらと類型AとBとは明らかな違いがあります。類型AとBは習熟度別の学習集団に分けて一斉指導を行っているという点です。

以上の調査結果からは、教育現場で少人数授業やチームティーチングや習熟度別指導を行っている小学校や中学校が多いことが明らかになっていますが、この状況について佐藤学(2004)は批判的な視点を提供しています。

2. 資料を参考にしながら少人数授業, チームティーチング, 習熟度別指導の長所と短所を挙げなさい。